

紅 萌 抄

の 刊 行 に つ い て

「紅萌クラブ」は多年にわたって三高会館東京分館として同窓会員の親睦および學術研究に対する便宜供与の場として利用されておりましたが、故鈴木常夫氏（S・17・9文丙）創始の同クラブ所有者（株）「紅萌」の事情により平成2年7月末を以って閉鎖の止むなきにいたしました。

三高会館東京分館における諸会合でのレクチュア内容を収録した『紅萌抄』なる冊子は（財）三高自昭会が各年度予算に計上する分館事業費の大半を充当して東京分館サイドで刊行し広く会員に配付してまいりましたが、以後『紅萌抄』に神陵文庫の文字を冠して、本館においてその刊行をつづけることにいたします。

なお、関東支部会員の諸例会はその後とところを変えて引き続き開催されていますので、『^{神陵文庫}紅萌抄』は、三高会館で回を重ねている「会館のつどい」でのレクチュアと「公開講演会」での講演の内容を収録する『^{神陵文庫}』ともども順次刊行を続けていくこととなります。

『神陵文庫』について

財団法人三高自昭会は、その事業の一つに「旧制高等学校教育の理念とその成果に関する調査・研究」を掲げています。これは新三高会館の開設を機に、新たに同窓会々員にスポットをあてて、旧制高等学校教育をうけた者の軌跡の一面を明らかにしようとするものであります。

過去の諸資料については、未だ多数の価値ある史実・資料の解明がまたれられているのですが、一応『神陵史』の編纂によってまとめられているのではないでしょうか。

この新しい記録や歴史をまとめて、後世に残してゆくことも亦意義あることであります。

爾来、同窓生を講師とする月例の「会館のつどい」や、春秋2回の「公開講演会」などを開催してまいりました。ここにこれらを収録する冊子を「神陵文庫」と名付け、昭和57年9月以降、日時の古いものから順に巻を追って刊行しております。